

大分類	中分類	個別施設等	〈公共施設等総合管理計画における基本的な方針〉	平成28年度末の進捗状況
1. 市民文化系施設	①集会施設	・「長岡中央公民館(あやめ会)」、 「葦山農村環境改善センター」	当面は現状の使用を継続、貸出施設の使用状況及び利用者の範囲や行政の事務所としての利用状況などを考慮し、集約化を検討。	
		・「葦山生涯学習センター」	地区と協議しながらそのあり方について検討。	
		・その他の公民館及び集会所	将来的に土地建物を地元へ譲渡し、地域住民による施設の管理・運営を目指す。	
	②文化施設	・「長岡総合会館(アクシスカつらぎ)」、 「葦山文化センター(時代劇場)」	利便性が高く、多くの市民に利用されている施設であり、定期的な点検や修繕などの実施により、施設の適切な維持管理を図る。	
		・「大仁市民会館」	一定の利用はあるものの、老朽化が著しいことや耐震性が不足していることから、 <b>既存の公共施設へ会館機能の移転を目指す。</b>	・大仁市民会館は平成29年3月10日で、施設の貸し出しを休止した。 ・旧大仁高校の本校舎の1階と離れの和室を改修し、生涯学習施設および児童館施設として平成29年4月4日から開所する。 ・大仁市民会館の解体を含めた跡地利用は今後検討していく。
2. 社会教育系施設	①図書館	・「中央図書館」、「葦山図書館」	多くの市民に利用されている施設であり、定期的な点検や修繕などの実施により、施設の適切な維持管理に努める。	
		・「長岡図書館」	安全性の面から平成28年3月で利用を休止し、「中央図書館」と「葦山図書館」にその機能を移転するとともに、休止後の建物のあり方について検討する。	・長岡図書館については、安全性の面から平成28年3月で利用を休止した。 ・長岡図書館の蔵書は、長期に利用されなかったものを除き、平成28年度中に「中央図書館」と「葦山図書館」へ移す。 ・また、市指定文化財となっている建物のあり方については、今後検討していく。
	②博物館等	・「葦山郷土史料館」	老朽化が著しいことや耐震性が不足していることから、 <b>博物館機能の移転を検討する。</b>	・葦山郷土史料館は平成29年5月1日をもって閉館する。 ・展示及び収蔵施設としての機能を中央図書館(旧大仁図書館)へ移転し、平成29年7月1日から開所する。 ・葦山郷土史料館は解体する予定である。
		・「歴史民俗資料館」	市の歴史を後世に伝えるための重要な施設であることから、定期的な点検や修繕などの実施により、施設の適切な維持管理に努める。	
3. スポーツ・レクリエーション系施設	①レクリエーション施設・観光施設	・「長岡南浴場」、「長岡北浴場」、 「葦山温泉館」	設置目的や利用状況、維持管理費用などを踏まえ、市内に3カ所ある高齢者温泉施設と一体的に施設のあり方について検討する。	
		・平成27年9月に閉鎖された「観光情報センター(跡地)」	関係機関との調整により、効率的な跡地活用を図る。	
		・観光トイレの3施設	設置目的である観光客の利便性の向上を図りつつ、適正に維持管理し、その利用状況によって、設置している施設の運営団体による管理運営について検討する。	
		・その他レクリエーション施設・観光施設	施設の安全性の確保に努めるとともに、観光客の利便性の向上を図ることにより、利用増進を目指す。	
	②スポーツ施設	・体育館	市民以外にスポーツ合宿などで利用され、今後も利用者の増加が見込まれ、設備面の更新等を計画的に実施し、定期的な点検や修繕などの実施により、施設の適切な維持管理に努める。	
		・「大仁武道館」	耐震性が不足しているため平成28年3月で使用を休止し、 <b>施設を廃止する予定。</b>	・大仁武道館については、耐震性の不足、老朽化などから平成28年3月末をもって閉館した。 ・利用団体と協議し、既存施設を利用することで調整した。 ・大仁武道館の跡地利用は今後検討していく。
		・「神島グラウンド」	スポーツ活動の場として利用が見込まれ、定期的な点検や修繕などの実施により、施設の適切な維持管理に努める。	
		・「江間グラウンド」	利用団体が地域に密着していることから地元の利用者による管理運営を検討する。	
		・「長岡温水プール」	市内及び市外から多くの利用者が見込まれ、定期的な点検や修繕などの実施により、施設の適切な維持管理に努める。	
4. 産業系施設	①産業系施設	・「まごころ市場」	来訪者の安全性や利便性を確保するため、定期的な点検や修繕などの実施により、施設の適切な維持管理に努める。	
5. 学校教育系施設	①学校	・学校全般	今後は更なる少子化の進行が想定されるが、当面は現状施設配置を維持する。ただし、施設の老朽化が著しく、将来構想・計画の策定や劣化調査を実施し、施設の計画的な長寿命化や建替えなどを検討する。	
		・「葦山中学校」の旧技術棟	老朽化が進んでいることや耐震性も不足していることから、 <b>解体する予定である。</b>	・今後、解体する予定である。
		・「長岡北小学校」体育館	耐震性が不足しており、耐震補強を実施する。	
			・余剰教室	地域の実情を踏まえながら他施設と複合化などを検討する。
	②その他教育施設	・給食施設・センター	老朽化への対応や施設運営の効率化に向けて、施設の集約を目指す。	
6. 子育て支援施設	①幼保・こども園	・「長岡保育園」	土砂災害特別警戒区域(急傾斜地の崩壊)に立地していることから、施設の移転などを検討する。	
		・「ひまわり保育園大仁分園」	施設の老朽化などにより継続的な利用が困難であることから、分園としての機能は廃止し、ひまわり保育園などに移転することを検討する。	
		・「大仁東幼稚園」	施設の老朽化が進んでいることや、園児10名未満で増加の見込みがないことから「 <b>のぞみ幼稚園</b> 」との統合を検討する。	・大仁東幼稚園については、施設の老朽化や園児の増加が見込まれないことから、同じ小学校区にあるのぞみ幼稚園への統合が検討されており、統合の時期については、現時点で平成30年3月末を予定している。
		・幼稚園	施設の利用状況や保育園へのニーズを踏まえながら、幼稚園の活用を検討する。	

大分類	中分類	個別施設等	〈公共施設等総合管理計画における基本的な方針〉	平成28年度末の進捗状況
6. 子育て支援施設 (続き)	②幼児・児童施設	・子育て支援の2施設及び放課後児童教室などの6施設	少子化の進行に伴い、将来的に利用者数の減少が想定されるが、核家族化や夫婦共働きの増加などの社会構造変化に伴う利用者ニーズも高く、現状の施設配置を維持する。	
		・放課後児童教室などの6施設	対象児童年齢の引き上げで、定員増加による建物規模の確保が課題となるが、空き教室を活用し効率的な施設運営を行う。	
		・「児童館」(大仁武道館と同じ建物内に設置)	耐震性の不足などにより、平成28年3月で利用を休止し、施設を廃止し、既存の公共施設へ児童館機能を移転する。	・大仁児童館については、耐震性の不足から、平成28年3月末日をもって休止した。(大仁高校にて機能確保) ・ひまわり保育園大仁分園内にひまわり広場を設置し、機能を移転した。 ・大仁児童館の跡地利用は今後検討していく。
7. 保健福祉施設	①高齢福祉施設	・「高齢者健康会館」「老人憩の家水晶苑」「高齢者温泉交流館」	設置目的や利用状況、維持管理費用などを踏まえ、市内に3カ所ある観光温泉施設と一体的な施設のあり方を検討する。	
	②保健施設	・「葦山福祉・保健センター」	介護予防事業の利用が予定され、今後も利用者の増加が見込まれる。設備面の更新などを計画的に実施し、定期的な点検や修繕などの実施により、施設の適切な維持管理に努める。	
8. 医療施設	①医療施設	・「伊豆保健医療センター管理棟」	敷地及び建物は、公益財団法人伊豆保健医療センターへの移管や民間への売却などについて検討する。	
9. 行政系施設	①庁舎等	・庁舎	平成25年度末から庁舎機能の集約について、調査・検討が進められており、その結果を踏まえ、集約の方法や時期などを検討する。	・庁舎の集約を先送りし、まずは、し尿処理場や火葬場、そして、平成33年度末までに整備完了を目指している「ごみ焼却施設」などの、市民生活に直結した生活環境施設の整備を進める。
	②その他行政系施設	・防災センター	避難場所に指定されており、定期的な点検や修繕などの実施により、施設の適切な維持管理に努める。	
10. 公営住宅	①公営住宅	・公営住宅	維持管理の対象とする住宅は「伊豆国市公営住宅等長寿化計画」に基づき計画的な修繕・改善事業を推進する。 解体・撤去の対象となる住宅跡地については、地域の実情や土地需要に配慮しながら効率的な土地活用を目指す。	・岩戸住宅については、耐用年数を経過しているため、平成28年度より空室になっている棟から順に、解体作業に着手している。 ・三福住宅については、耐用年数を経過しているため、平成29年度以降、空室になっている棟から順に、解体作業に着手していく。
11. 公園	①公園	・公園	→市民の交流や憩い場所であり、スポーツ活動の拠点として、市内外から多くの利用者が訪れる施設である。定期的な点検や日常的な維持管理により施設の安全性確保や利用者の利便性の向上に努める。	
		・「広瀬公園」に設置されているプール	→老朽化と利用期間が短く、ポンプ設備などの維持管理費が高額なことから、屋外プールのあり方について検討する。	
12. 供給処理施設	①供給処理施設	・既存のごみ焼却施設	新しいごみ焼却施設が平成34年度に稼働する予定であり、整備完了後に廃止する。	・新ごみ焼却施設については、平成34年度当初からの稼働を目指すため、平成33年度末までの整備完了を目標として、伊豆市佐野における建設地への施設整備を進める。
		・「葦山リサイクルプラザ」「大仁リサイクルセンター」「長岡清掃センター」内の資源ごみの処理機能	ごみ焼却施設の整備に伴い配置状況などを踏まえた施設のあり方を検討する。	
		・最終処分場	埋め立て量の目標値に近づき、広域的な連携も視野に入れ対応を検討する。民間連携による焼却灰の再利用を検討し、埋め立て量の減量化を実施する。	
		・し尿処理場	「大仁し尿処理場」は廃止し、「長岡し尿処理場」と「葦山し尿処理場」の2処理場体制としたが、維持管理費の抑制や効率的な処理のため1処理場体制への移行を進める。移行の完了までは適切な維持管理に努める。廃止した施設について、解体撤去を進め、跡地の有効活用を検討する。	・し尿処理場については、施設や設備の老朽化が進んでいることなどから、1処理場体制への移行を進めており、合併特例債を活用し平成32年度末までに新施設の整備を目指す。
		・「資源循環センター農土香」	資源循環施設として継続して維持管理を図る。	
13. その他	①その他	・「長岡斎場」	施設や設備の老朽化で施設規模が不足することから、耐用年数や市民意向を踏まえ、新たな火葬場の整備を進める。整備が完了するまでは適切な維持管理に努める。	・長岡斎場については、施設や設備の老朽化が進んでいることや、将来的に施設規模が不足することから、合併特例債を活用し、平成32年度末までの整備を目指す。
		・「旧田中山分校」及び「旧高原分校」	建物の状況を踏まえながら有効活用の可能性を検討する。	
		・ポンプ場	内水対策に必要な施設であり、機械設備の定期的な点検などにより、施設の維持管理に努め、必要に応じ施設更新を行う。	
		・排水機場及び揚水場	農業生産の安定や農地保護に必要な施設で、機械設備の定期的な点検などにより、施設の維持管理に努め、必要に応じて施設の更新を行う。	
		・「市営1号源泉」	温泉供給施設のあり方に沿って、機械設備の整備を図る。	
		・その他	上記以外の施設は、安全性確保に努めながら適切な維持管理に努める。	